

2026年6月1日

「Dify Essential/Standard」ライセンスと、 Dify アプリケーションの無償テンプレートを提供開始 ～リコーグループの社内実践をもとに作成した実用的なテンプレートと スモールスタート可能なライセンス提供で、顧客の AI 活用を支援～

リコージャパン株式会社(社長執行役員:笠井 徹)は、生成 AI アプリケーション開発プラットフォーム「Dify(ディフィ)」において、企業の利用フェーズやニーズに応じた新たなライセンス体系として「Dify Essential」「Dify Standard」両ライセンスの提供を2026年6月1日より開始します。また、Dify ライセンスや Dify 関連サービスを導入いただいたお客様向けに、リコーグループの社内実践で培ったノウハウをもとに作成した Dify アプリケーションテンプレートの無償提供も、同日より開始します。

近年、生成 AI の業務活用が急速に拡大する中で、企業においては小規模な検証からの利用開始や部門単位での活用など、多様なニーズが顕在化しています。今回提供を開始する両ライセンスは、こうした段階的な活用ニーズに対応することで、AI 活用の立ち上げから本格導入までを支援するものです。

「Dify Essential」は、AI 活用のスモールスタートや検証に適したライセンスで、部門内の特定業務に向けた AI アプリケーション開発を想定しています。一方、「Dify Standard」は、部門単位での本格利用を想定したライセンスで、将来的に全社展開を想定した「Dify Enterprise」ライセンスへの移行も可能です。

| 商品 | Dify Essential | Dify Standard |
|------------|--|--|
| コンセプト | <p>①スモールスタート向け 小規模チーム向けライセンス</p> <ul style="list-style-type: none"> Difyをスモールチームで利用可能なライセンス まずは限られた少人数のメンバーでDifyを使いたい、限られた部門から始めたいユーザー向け PoC・検証段階からも利用できるライセンス | <p>②部門横断対応 中規模チーム向けライセンス</p> <ul style="list-style-type: none"> Difyを中規模チームで、複数部門での利用に対応したライセンス Dify Enterpriseへのアップグレードも視野に入れた部門横断型ライセンス |
| 部署・開発・ユーザー | <ul style="list-style-type: none"> 部門：単一または限定された特定部門 開発人員：少人数の開発チーム・担当者 利用者：単一または限定された特定部門で開発し、Difyアプリ・WFを社内に展開 | <ul style="list-style-type: none"> 部門：中規模部門・複数の特定部門で開発 開発人員：開発者、部門キーマンが活用し、中規模に開発可能 利用者：複数の部門で開発し、Difyアプリ・WFを社内に展開する |

「Dify Essential/Standard」ライセンス概要

リコージャパン株式会社 <https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-japan>

報道関係のお問い合わせ先 リコージャパン株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報・ブランディンググループ
E-mail : z_jc_rjcccd@jp.ricoh.com

お客様の問い合わせ先 リコーのAIに関するお問い合わせ
<https://promo.digital.ricoh.com/ai/contact/>

同日に提供を開始する Dify アプリケーションテンプレートは、「Dify Essential」「Dify Standard」ライセンスをご利用のお客様に加え、「Dify Enterprise」ライセンスを含む、リコージャパンから Dify を導入いただいているすべてのお客様を対象に提供します。

リコージャパンは、これまでオンプレミス環境でセキュアにかつスピーディに生成 AI 活用を始められるパッケージソリューション「RICOH オンプレ LLM スターターキット」や、Dify 活用の伴走支援を行う Dify 支援メニュー、金融・医療など業種向けのテンプレートなどを提供してきました。一方で、お客様は Dify 導入後、社内展開にあたって生成 AI の具体的な活用イメージの醸成が、生成 AI 活用定着にむけた課題となっていました。

リコーグループでは、国内グループ社員約 3 万人が利用可能な Dify 環境を整備し、各部門および個人が Dify 上で約 9,300*の業務に即したアプリケーションを作成するなど、継続的な業務改善を推進しています。今回、こうした社内での実践を通じて蓄積してきたノウハウを生かし、導入後すぐに業務で活用できる実用的なアプリケーションテンプレートを、第一弾として 9 種類無償提供します。これにより、AI 専門人材が不足しているお客様でも生成 AI の業務への具体的な活用イメージをもてるようになり、Dify の社内活用が加速します。

*2026 年 5 月時点

Dify アプリケーションテンプレート一覧

| 利用用途 | テンプレート名 | 概要 |
|----------------|---------------------|---|
| テキスト生成・文章作成 | レポート読込提案書自動作成 | 各種レポート(環境経営レポートなど)を読み込ませ、顧客課題の深堀とソリューション提案書を自動生成 |
| | オフリング提案自動作成 | 情報収集、SWOT 分析、オフリング、商品の紐づけまでを自動化し、提案内容の骨子を作成 |
| | イベント招待メール作成 | イベントセミナーの中から顧客の業種、関心事に合わせた最適なセミナーを自動選択し、イベント招待メールを生成 |
| | アンケート自由記述カテゴリ分類 | アンケートの自由記述データをカテゴリ毎に自動分類、集計 |
| | アンケート自由記述 N1/N 全体分析 | 自由記述のアンケート回答を全体でまとめて分析し、その結果をもとに具体的な改善施策を自動で提案 |
| アイデア創出支援 | 共創ビジネスアイデア生成 | パートナー企業のソリューションを入力することで、商談時の話の種となるような共創ビジネス案を提案 |
| | 顧客課題言語化工具 | 顧客企業名とお客様との商談履歴を入力すると課題を可視化 |
| インタビュー・ヒアリング支援 | AI 顧客インタビュー | 商品マーケティングのチューニング向けに、仮想消費者ペルソナへのインタビューで購買行動・課題を引き出すチャットボット |
| | 展示会セミナー案内 | イベントの課題・テーマに合わせ展示やセミナーとスケジュールを提案 |

リコージャパンはリコーグループの実践活動で培ったノウハウとともに、お客様に寄り添い、業種業務に合わせて利用できる「使える・使いこなせる AI」を提供し、お客様が取り組むオフィス／現場のデジタルトランスフォーメーション (DX) を支援してまいります。

AI の市民開発と Dify について

近年の生成 AI の普及により、幅広い業務での AI 活用による業務効率化・生産性向上が検討されています。一方で、社内に AI の開発ができる人材がいない、開発にかかる工数や費用を懸念している等、実際の AI 活用には課題が存在しています。そうした中で、技術的な知識がない人でも AI アプリケーションを簡単に作成し、広く利用できるようにする「AI の市民開発 (AI の民主化)」が注目されています。

Dify は、LangGenius, Inc. が開発したオープンソースの LLM アプリ開発プラットフォームです。RAG エンジンを使用して、AI エージェントから複雑な AI ワークフローまで、LLM を活用したアプリケーションやサービスを簡単に作成・運用することができます。最大の特徴は、プログラミングの知識がなくても、ノーコードで開発できる点です。プログラムを書く必要なく、処理の機能を持つブロックをつなげていきプログラムを組み立てる直感的なインターフェースで、多様な AI アプリケーションを簡単に作成できます。技術者ではない実際の業務担当者が、自ら業務に最適な AI アプリケーションを素早く開発する AI の市民開発のために、活用が期待されているプラットフォームです。

■関連ニュース

リコージャパン、Dify アカデミック版と教育支援サービスを提供開始

https://jp.ricoh.com/release/2025/0630_1

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」開発元の LangGenius, Inc. と販売・構築パートナー契約を締結

https://jp.ricoh.com/release/2024/1217_1

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し、AI の市民開発に向けた取り組みを加速

https://jp.ricoh.com/release/2024/1128_1

■関連情報

Dify

<https://www.ricoh.co.jp/products/list/dify>

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、世界約200の国・地域で、AIをはじめとする先進テクノロジーと、長年培ってきたプリンティング領域の強みを基盤に、ワークプレイスにおける業務変革を支援するサービス・ソリューションを提供しています。また、商用・産業印刷事業や、インクジェット技術を応用した新たなソリューションの展開を通じて、お客様の価値創出を支えています(2026年3月期グループ連結売上高2兆6,083億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来90年にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>